

# チョウの食草・食樹について

チョウは種類によって、卵を産みつける植物が決まっています。しかも、ふ化した幼虫が食べられるように柔らかい若葉を選んで産みつけています。

例えば、アゲハはユズやカラタチなどの柑きつ類の葉に、モンシロチョウはキャベツなどの葉に、キタキチョウはハギ類やネムノキなどのマメ科の葉に卵を産みつけます。幼虫は葉を食べて成長し、やがて成虫となっていきます。不思議なことに各種のチョウの食草・食樹が競合しないで、植物の生育のサイクルに合わせ、じょうずに生きているのです。



ハナユズの葉を食べるアゲハの幼虫

## こだいらのチョウについて

市内には約40種のチョウが生息しています。このうち、今回の事業では、観察モニターの庭やベランダで、合計14種類のチョウを観察することが出来ました。

このうち、「アゲハ」に次いで多く観察された「ツマグロヒョウモン」は、つい20年位前までは、小平でほとんど見かけることはありませんでした。もともと暖地性（暖かい地域で生息）であるこの種が温暖化の影響により、生息域が北上してきたことや、ガーデニングブームにより、食草のパンジーやビオラなどのスミレ科の園芸植物が大量に植えられるようになったこと、外来種のスミレが野生化して増えたことが一因と考えられています。その他、暖地性であるナガサキアゲハ（アゲハチョウ科）やムラサキツバメ（シジミチョウ科）も温暖化の影響で増えてきています。



ツマグロヒョウモン

一方、日本の国蝶に指定されている「オオムラサキ」はかつて小平の雑木林などに生息していましたが、1970年代に入ると姿を見ることができなくなりました。

オオムラサキの幼虫はエノキの葉を食べて育ち、成虫はクヌギやコナラなどの樹液を吸って生活していますが、宅地開発などにより雑木林が少なくなったことで絶滅したものと思われる。今生息している生き物たちが第二のオオムラサキにならないように、現在残っている雑木林などのみどりを守り育てることが大切です。

平成27年5月

観察モニターへ  
配布した植物  
4種類

オミナエシ  
コオニユリ  
ハナユズ  
ヤマハギ



オミナエシの苗



コオニユリの苗



ハナユズの花



ヤマハギの花

平成28年5月

観察モニターへ  
配布した植物  
3種類

フジバカマ  
オニユリ  
ハナユズ



フジバカマの花



オニユリの花



ハナユズの実

※各写真は観察モニターがお庭やベランダで配布植物の様子を撮影したものです。

平成30年(2018年)2月発行

編集協力 鈴木 忠司氏(蝶のスタジオ)

中村 忠昌氏(株式会社生態計画研究所)

写真提供 鈴木 忠司氏(表紙のチョウ)

発行 小平市環境部水と緑と公園課

所在地 小平市小川町二丁目1,333番地

電子メール koen@city.kodaira.lg.jp

ホームページ <http://www.city.kodaira.tokyo.jp>